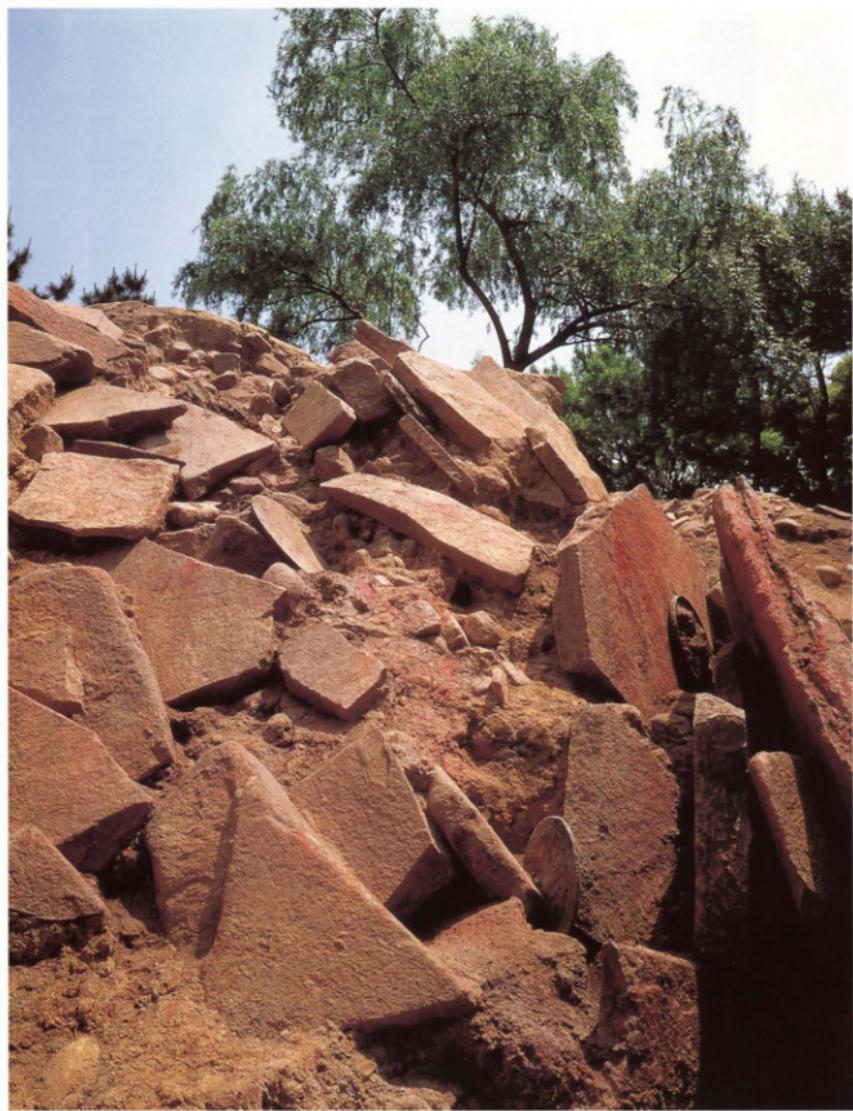


平成5～8年度
神戸市遺跡現地説明会資料集



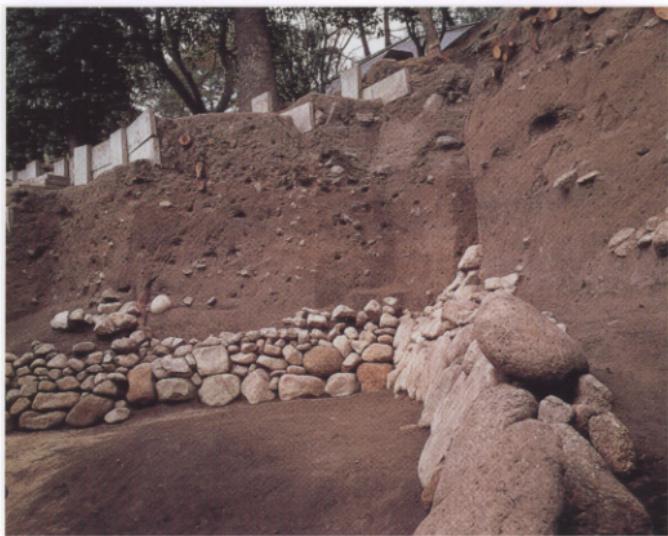
神戸市教育委員会



1. 西求女塚古墳 青銅鏡出土状況



2. 犬園遺跡 園池土器出土状況



3. 西求女塚古墳 くびれ部葺石



4. 岡本北遺跡 調査地全景



5. 水谷大東古墳 全景



6. 郡家遺跡 調査地全景



7. 本山遺跡、弥生時代竪穴住居



8. 頭高山遺跡 山岳寺院跡基壇



9. 寒風遺跡 調査地全景



10. 沢の鶴大石蔵 槽場



11. 住吉宮町遺跡 慶長の大地震でずれた奈良時代の井戸



12. 松野遺跡 調査地全景



13. 湯山遺跡（伝豊太閤湯殿あと）蒸し風呂遺構

目 次

頁

現地説明会資料

平成 5 年度

1. 西求女塚古墳第2回現地説明会資料（平成 5 年 7 月 11 日） 1

平成 6 年度

2. 祀園遺跡現地説明会資料（平成 6 年 11 月 15 日～18 日） 14

3. 西求女塚古墳現地説明会資料（平成 6 年 12 月 4 日） 25

平成 7 年度

4. 岡本北遺跡現地説明会資料（平成 8 年 2 月 24 日） 36

平成 8 年度

5. 水谷大東古墳現地説明会資料（平成 8 年 5 月 19 日） 40

6. 郡家遺跡現地説明会資料（平成 8 年 6 月 15 日） 48

7. 本山遺跡現地説明会資料（平成 8 年 10 月 10 日） 54

8. 頭高山遺跡現地説明会資料（平成 8 年 11 月 10 日） 60

9. 寒鳳遺跡第 2 次現地説明会資料（平成 8 年 11 月 16 日） 71

10. 沢の鶴大石蔵現地説明会資料（平成 9 年 1 月 15 日） 80

11. 住吉宮町（第 23 回調査）現地説明会資料（平成 9 年 1 月 25 日） 90

12. 松野遺跡第 4 次調査現地説明会資料（平成 9 年 2 月 2 日） 96

13. 有馬極楽寺（伝豊太閤湯殿あと）現地説明会資料（平成 9 年 3 月 16 日） 106

展示会・見学会資料

平成 5 年度

14. 潤和遺跡と周辺の遺跡展 玉津南公民館 平成 5 年 2 月 28 日～平成 5 年 3 月 28 日 115

15. 第 8 回 長尾町埋蔵文化財展 駿府城歴史センター 平成 5 年 11 月 1 日～平成 5 年 11 月 3 日 117

平成 6 年度

16. 明石川流域の弥生の村 玉津南公民館 平成 6 年 5 月 21 日～平成 6 年 5 月 26 日 119

17. 白水遺跡発掘調査報告会 西神文化センター 平成 6 年 7 月 14 日 121

18. 第 9 回 長尾町埋蔵文化財展 駿府城歴史センター 平成 6 年 11 月 1 日～平成 6 年 11 月 3 日 122

平成 8 年度

19. 勝雄遺跡淡河小学校見学会 勝雄遺跡 平成 8 年 11 月 27 日 124

20. 遺跡か語る淡河の歴史 駿府城歴史センター 平成 8 年 4 月 28 日～平成 8 年 5 月 6 日 127

21. 出土品から見た兵庫津 兵庫図書館 平成 8 年 5 月 10 日～平成 8 年 10 月 3 日 133

22. 白水遺跡展 玉津南公民館 平成 8 年 5 月 25 日～平成 8 年 5 月 30 日 135

23. 本山遺跡 2 0 次調査 本山遺跡 平成 8 年 7 月 16 日 137

24. 井戸田遺跡小学校見学会 井戸田遺跡 平成 8 年 7 月 17 日 139

25. 兵庫区大開遺跡の調査 兵庫図書館 平成 8 年 10 月 4 日～平成 9 年 2 月 25 日 140

26. 都賀遺跡展 都文化会館 平成 8 年 11 月 8 日～平成 8 年 11 月 10 日 142

27. 横谷町の原始・古代遺跡 駿府城歴史センター 平成 9 年 3 月 8 日 144

現地説明会資料

平成5年度

西求女塚古墳
第2回現地説明会資料



平成5年7月11日

神戸市教育委員会

今回の調査では下記の機関ならびに方々から協力、指導を得ました。

文化庁 田中 琢 文化財鑑査官

奈良国立文化財研究所 村上 隆 主任研究官

奈良国立文化財研究所 牛島 茂 文部技官

奈良国立文化財研究所 岸本 直文 文部技官

八尾市立団川小学校 奥田 尚 教諭

通産省工業技術院地質調査所近畿・中部地域地質センター 寒川 旭 主任研究官

神戸市文化財専門委員 和田 晴吾・檀上 重光両先生

神戸市灘区灘南部自治会

文化庁

兵庫県教育委員会

神戸市土地開発公社

神戸市土木局

神戸市住宅局

神戸市灘区役所

表紙は西求女塚古墳出土三角縁神獸鏡（2号鏡）縮尺約2／3



図 1 西求女塚古墳と周辺の遺跡 ($S=1/25000$)

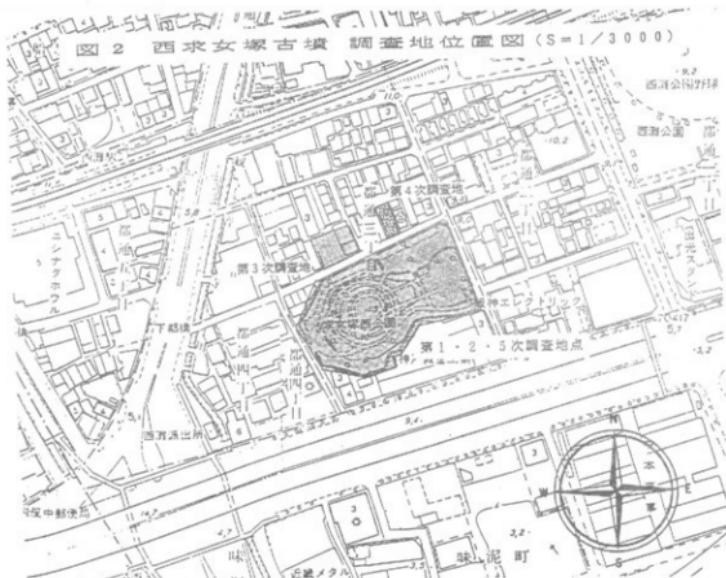
番号	遺跡名	時期	遺跡の種類	番号	遺跡名	時期	遺跡の種類
1	西求女塚古墳	古墳時代前期	古墳	7	八幡町遺跡	中世	集落
2	大石東遺跡	古墳時代	集落	8	伯母野山遺跡	弥生時代中期	集落
		中世		9	十善寺古墳群	古墳時代	古墳
3	丸女塚古墳	古墳時代前期	古墳	10	桜ヶ丘B地点	弥生時代中期	集落
4	福原南町遺跡	縄文時代晚期	集落		遺跡		
		古墳時代前期		11	瀧ノ奥遺跡	縄文時代早期	集落
5	福原遺跡	縄文時代中期・晚期	集落			弥生時代中期	
		弥生時代後期				中世	経塚
6	郡賀遺跡	縄文時代早期	集落	12	桜ヶ丘遺跡	弥生時代中期	耕作出土地
		弥生時代中期・後期					

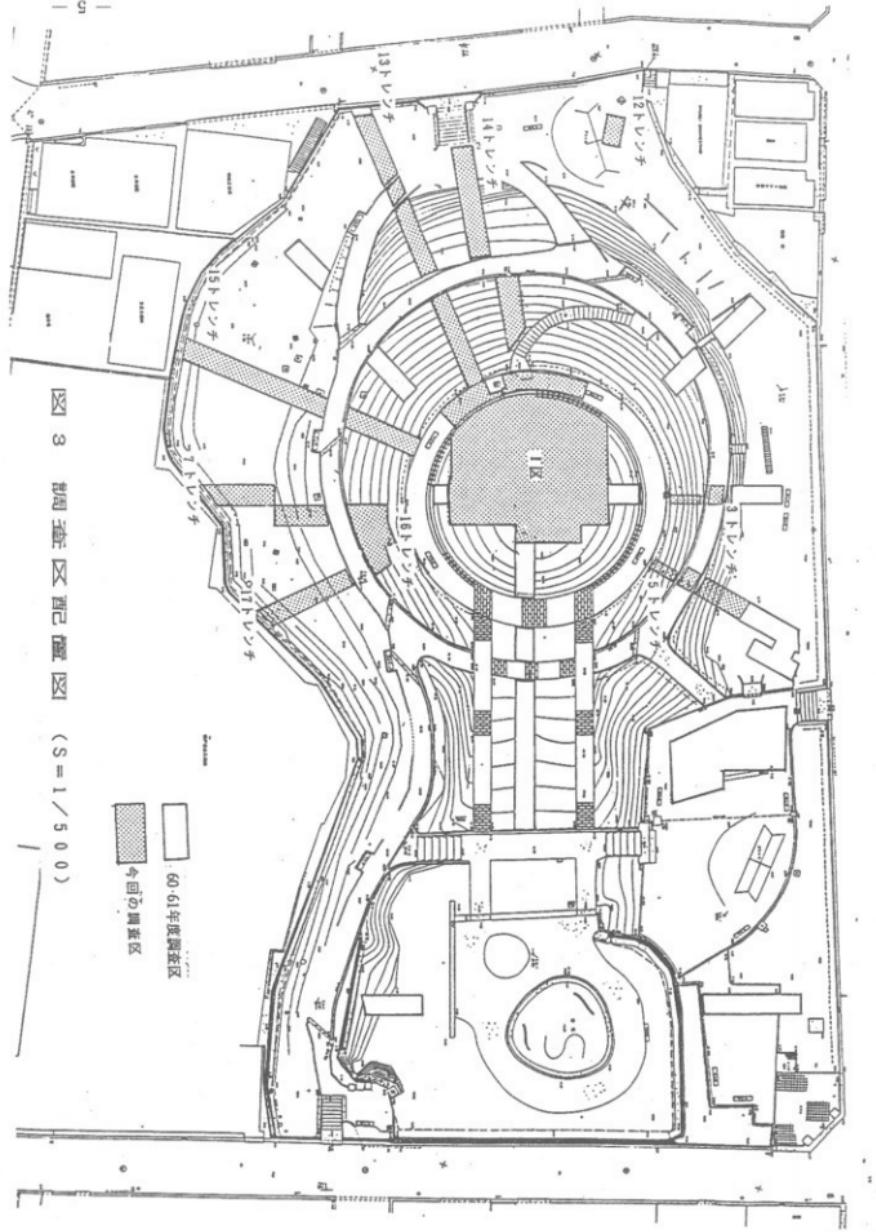
1. はじめに

西求女塚古墳は、菟原姫女の悲恋伝説にまつわる菟原社の塚として古くは万葉集に詠まれ、「大和物語」や謡曲「求女塚」などにも登場する古墳として、東灘区の東求女塚古墳・菟原姫女の古墳とともに、古くから知られていた古墳です。

昭和39年より公園として供用されていましたが、古墳整備のための資料を得る目的で、公園内を昭和60・61年度の2回、試掘調査を行いました。また、公園の北側をマンション建設等にともなって2度、調査を行っています。今回が周辺も含めて第5次調査になります。今回の調査は、この古墳のある味泥地区の下町活性化町づくりのシンボル事業の1つとして、古墳整備の計画があがり、その整備のための資料を得る目的で、平成5年1月25日から国庫補助金を得て調査を行っています。

昭和60年度の調査時に、後円部の墳頂付近で埋葬施設の一部と考えられるものが見つかっていましたが、その構造や規模などを明らかにすることはできませんでした。今回の調査は、この埋葬施設の構造や規模を確認するために、墳頂部分を広げて、調査を行っています。





2. 調査概要

① 地震の痕跡

第5次調査前期の調査時に、埋葬施設が存在すると考えられた所で、黄色粘土・板石・礫の広がりが確認され、また板石と黄色粘土が崩れ込んでいる大きな落ち込みが見つかりました。

この大きな落ち込みは、墳丘の地滑りによるものと判明しました。その原因としては、この古墳の基盤である砂層が、地震による液状化現象によって不安定になったためと考えられます。



図 4 土質工質調査区平面図 ($S = 1/100$)
(天井石被覆粘土のある状態)

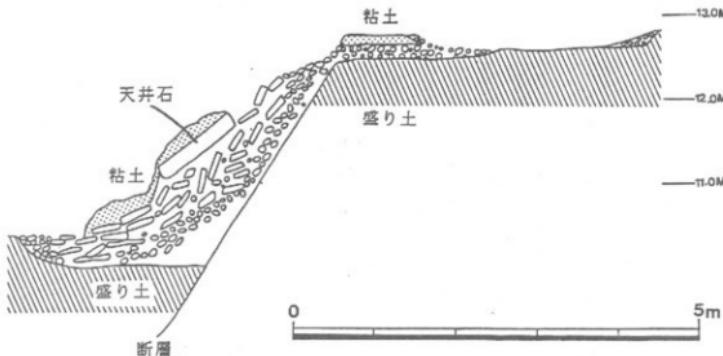


図 5 墳頂部調査区断面模式図 ($S = 1/60$)

②埋葬施設

この古墳の埋葬施設は地滑りによって崩れてしまっており、またその後、削平を受けているため、その構造は明確ではありませんが、堅穴式石室だったと考えられます。

石室の規模も明確ではありませんが、幅0.85m、長さ5mほどと考えられます。石室を構築する石材は主に安山岩が使われ、天井石には緑泥片岩と石英斑岩が使われています。これらの石はこの付近では産出されず、遠くから運ばれてきたものです。

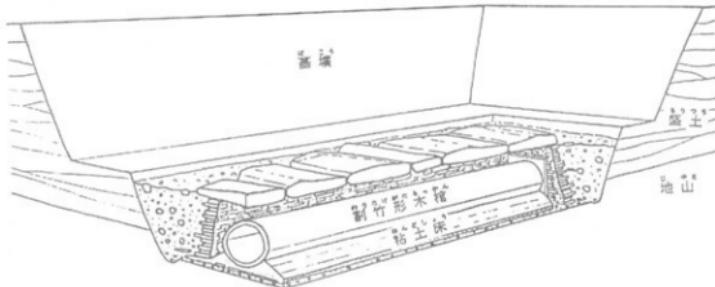


図 6 堅穴式石室模式図 (『古代史復元 6』より)



図 7 塹頂部調査区平面図 ($S = 1/80$)
(天井石被覆粘土をはずし、天井石が現れた状態)



図 8 塹頂部調査区平面図 ($S = 1/80$)
(天井石をはずした状態と鏡の出土位置)

③出土遺物
鏡 鏡は、以前の調査も含めて全部で12面分が出土しています。そのうち7面は三角縁神獣鏡で、他の5面もすべて船載鏡（中国製の鏡）です。仿製鏡（日本製の鏡）を含まず船載鏡のみを多数副葬している例は全国的に少なく、貴重な例といえます。

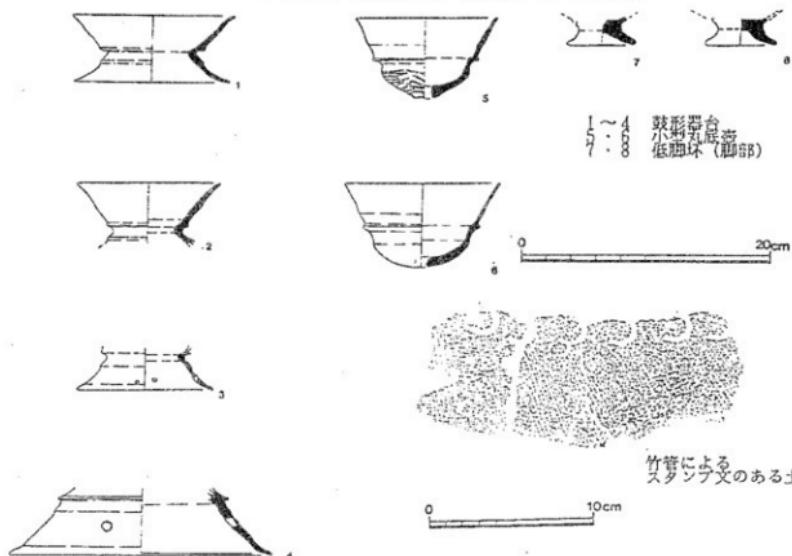
鏡には布の付着しているものもあり、布にくるんで副葬していたことがわかります。

鉄製品 鉄製品としては、武具である剣と槍の破片が数点出土しています。

以上の鏡や鉄製品は、石室内に副葬されたものですが、その位置等は石室が崩れているため、明らかではありません。

土器 石室が崩れ込んだ落ち込み内に堆積した土の上層から、土師器の、小形丸底壺や鼓形器台、スタンプ文のある壺形土器が出土しています。これらの土器は、墳丘の上で行われた祭祀に伴う土器であると考えられます。また山陰地方特有の形をした土器であることから、この古墳の被葬者は山陰地方との関わりがあったと思われます。

図9 出土遺物実測図及び拓本



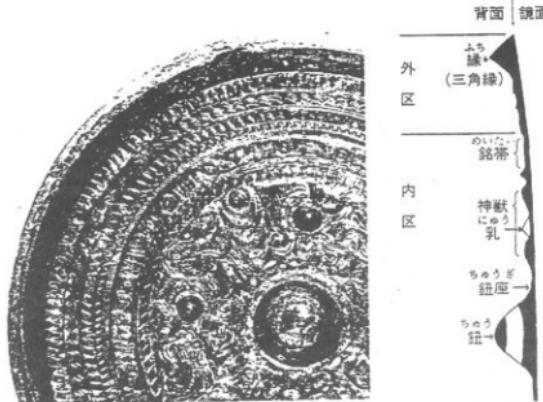


図10 三角縁神獣鏡の部分の名称
(京都府立山城郷土資料館他編『鏡と古墳』より)



2号鏡



5号鏡



6号鏡



7号鏡

図11 西求女塚古墳出土鏡内区
レントゲン写真 錏尺は不同

古墳時代中期—後期

9

	種式	直径	縦文	同范(型)鏡	備考
1号鏡	(半肉形) 帶帶銘	不明	——	——	破片 昭和60年度出土 神戸市埋蔵文化財センターにて展示
2号鏡	三角縁吾作四神四獸鏡	22.4	吾作明竟甚大好上有神守及龍虎 身有文章口銜巨古有聖人東王父西王母 渴飲玉飴食靈藥如金石良相保	出土地不明・泉屋博古館藏25鏡	平成4年度一部出土
3号鏡	三角縁吾作三神五獸鏡	22.5	吾作明竟甚大好上有神守及龍虎 身有文章口銜巨古有聖人東王父西王母 渴飲玉飴食靈藥如金石	京都・椿井大塚山古墳 岐阜・（伝）田可兒町出土 千葉・城山1号墳	平成4年度出土
4号鏡	三角縁神獸鏡	不明	——	——	破片 平成4年度出土
5号鏡	三角縁是作五神四獸鏡	21.8	「君」銘是作明竟甚大好上有神守「官」及龍虎 背文章口銜巨「高」古有聖人東王父西王母	兵庫・牛谷天神山古墳	——
6号鏡	画文帶環狀乳神獸鏡	15.4	渴「官」飲玉飴食靈藥長相保 不 明	——	——
7号鏡	神人龍虎面像鏡	18.5	田氏作明竟□□□有服者男子公卿女子諸王。 當年益孝子孫昌千秋萬歲不知老長宜子孫 (傳題「大王公」)	福岡・石塚山古墳	——
8号鏡	三角縁吾作四神四獸鏡	19.8	吾作明竟甚大好上有神守以赤松 勝子天鹿其彝龍天下名好世無雙	京都・中小田1号墳 大阪・万年山古墳	——
9号鏡	三角縁吾作徐州絃四神四獸鏡	22.4	吾作明竟幽体三廟嗣出徐州彌縫文章 配德君子清而且明左龍右虎傳世右名 敢告大吉保子宣孫	京都・椿井大塚山古墳 奈良・佐味田玉塚古墳 岐阜・内山1号墳	破片
10号鏡	三角縁神獸鏡	不明	——	——	——
11号鏡	画文帶環狀乳神獸鏡	17.1	天王日月	——	——
12号鏡	半肉形帶銘	14.2	不 明	——	——

同範(型)鏡……同じ原型または、同じ鋳型で鋳造された鏡。

3. まとめ

これまでの調査と今回の調査から以下のことがわかつてきました。

1. 墳丘の全長は110m以上で、後円部の直径は約70mの東に向いた前方後円墳であること。
 2. 埋葬施設は後円部の中央部に竪穴式石室が造られており、副葬品として12面の鏡と鉄製の剣・槍等を副葬していました。
 3. 出土遺物は古墳時代前期のなかでも古い時期のものであり、古墳の築造時期もこの頃と思われること。
 4. 副葬品の他に山陰系の土器が墓上の祭祀に使われていたり、石室の構築材料に他の地方の石材を大量に使っていることから、この古墳の被葬者は他地域とも交流があったものと考えられること。
 5. 墳丘全体と竪穴式石室は地震による地滑りでかなり崩れています。
 6. 墳丘表面はかなり改変されていること。
 7. 斜面には葺石が存在したが、埴輪は置かれていなかつたこと。
- 以上のことから、この古墳の被葬者は、特に鏡を多数所有していたことなど、当時の相当有力な豪族だったと言えるでしょう。
- 今後、西求女塚古墳は復元整備計画を進めていく予定です。また出土遺物の調査によって、この地域の古墳時代の様子も明らかにしていくことができるでしょう。

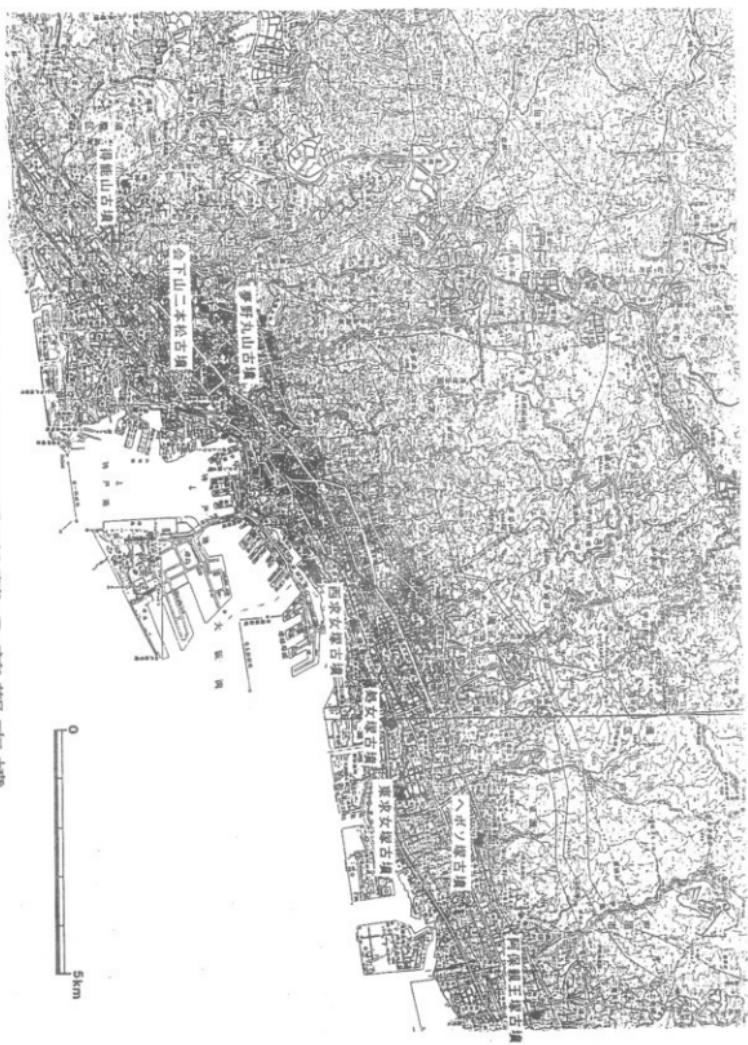
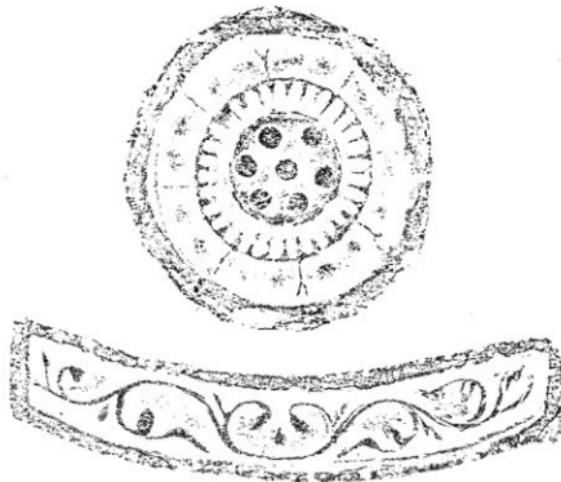


図12 六甲山系南端の前期古墳

平成6年度

兵庫県地図帳月次会員登録カード

祇園遺跡
現地説明会資料



1 9 9 4 . 1 1 . 1 5 . ~ 1 1 . 1 8 .

神戸市教育委員会

1.はじめに

例年夏祭りでにぎわう祇園神社が「平野の祇園さん」とよばれ親しまれて
いるように、現在でも兵庫区の上祇園町周辺は「平野」という古くからの地
名で通っています。

この上祇園町を中心にひろがる祇園遺跡は、中世の遺物が散布する遺跡と
してその存在が知られていました。発掘調査は、道路拡幅計画にともない平
成5年度になって行われたのが初めてで、今回現地説明会を開催する地点の
調査が第2次となります。また、第2次調査地点の南60mの地点で住宅建設
にともない第3次調査を実施しました。

本日は両調査の成果をご覧いただきたいと思います。

現 在



明治 19 年



祇園遺跡周辺の主な遺跡及び伝承地

- 1 : 祇園遺跡
- 2 : 雪御所遺跡
- 3 : 楠・荒田町遺跡（神戸大学病院地点）
- 4 : 賴盛邸伝承地（荒田八幡神社）

2.周辺の遺跡および祇園遺跡のこれまでの調査

明治年間、現在の湊山小学校周辺で水道工事に際して、福原京当時の軒平瓦や土師器が出土したのが、考古学的に福原京当時の遺物が知られるようになったはじまりです。しかし、その後はこの都に関連すると思われる平安時代末期の遺構・遺物の発見はほとんど報告されていませんでした。

ところが、昭和56・57年に神戸大学付属病院の敷地内で行われた発掘調査で直径90cmの柱穴をもつ掘立柱建物や東西に平行する深さ1.9mの堀などが検出され、これらが平安時代後期のものであることが判明しました（楠・荒田町遺跡）。



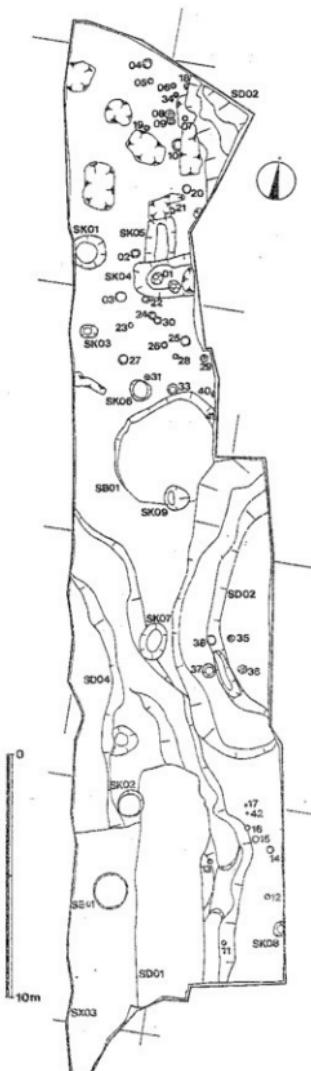
祇園遺跡調査地

昭和61年度に行われた湊山小学校校舎改築にともなう発掘調査でも当時の土師器が出土したもの、めだった遺構は検出されませんでした。

昨年度行われた紙園遺跡第1次調査では、縄文時代早期～前期（約7000年前）の流路、弥生時代末（約1700年前）の竪穴住居址・溝、平安時代末（約800年前）の柱穴・室町時代～江戸時代の柱穴・土坑・石組みの溝などが確認されました。平安時代の遺物としては、石帶とよばれる官人のしめるベルトの飾り石、福原京当時の瓦類が出土しました。



第1次調査
出土の石帶



第1次調査地遺構平面

3. 調査の概要

縄文時代

流路が確認されています。

弥生時代

溝が確認されています。

室町時代～江戸時代

調査区の北部で、室町時代に作られ江戸時代まで利用されていた石組みの溝が、調査区の南部で、素掘りの井戸が確認されています。

この井戸は直径1.8m・深さ80cmほどのものです。その底面は平安時代の園池遺構の石敷きの上面よりもわずかに20cmほど掘りくぼめたものとなっており、江戸時代の地下水位がこの井戸からわかります。

平安時代末

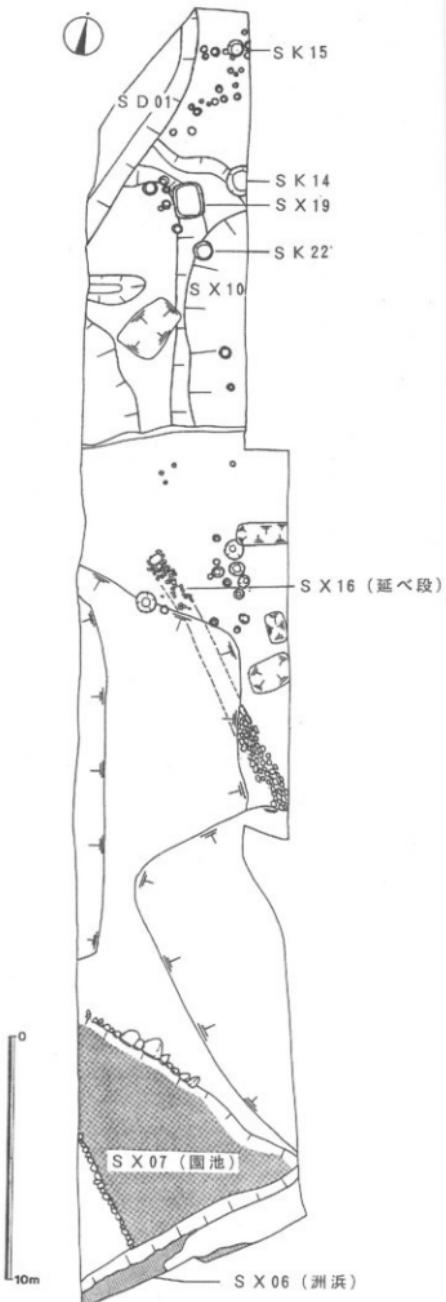
調査区の南部で園池の一部、中部で延べ段とよばれる通路状の石敷き・柱穴・土坑、北部で浅い大きな落ち込み遺構・土坑・建物の柱穴などが検出されました。

ただ、調査範囲が幅狭いため、柱穴がどう組み合って建物を構成するのかは現在のところわかつていません。

延べ段 (SX16)

北西から南東につづく通路状の石敷き遺構です。

第2次調査地
遺構平面



園池（S X07）

こぶし大からひとかかえ以上あるような石を敷きつめた遺構で、その山側にあたる北部に北西から南東方向、元来の等高線に沿う方向で大きな石材を使った石垣が築かれています。調査区の南西部にも小ぶりの石を積んだ東面する石垣があり、その西側は土が盛られ、一段高くなっています。また、調査区の南端部分でもチャート系の玉石を多く敷きつめた洲浜が検出されています。この洲浜は石敷きや石垣を埋めこんで築かれ、この遺構が一時期の所産でないことを示しています。少なくとも3度、作りかえがおこなわれていることが確認できました。

この遺構をおおう土の状況から、この遺構は水をたたえていたものと考えられ、この遺構は園池である可能性が高いと考えられます。この遺構には多量の土器類が投棄とうきされていますが、特に千に達するような数のかわらけ類が集中して出土している部分があり、これらは宴会のあと一括して投棄されたものと考えられ、興味深い資料です。

玉石を使った洲浜や大ぶりの石を使った石垣は平安時代末の園池の様相として通有なものですが、池の底に石を敷くことや、小ぶりの石を石垣に用いることなどこの時期の他の園池に見られない様相もあり、注意されます。

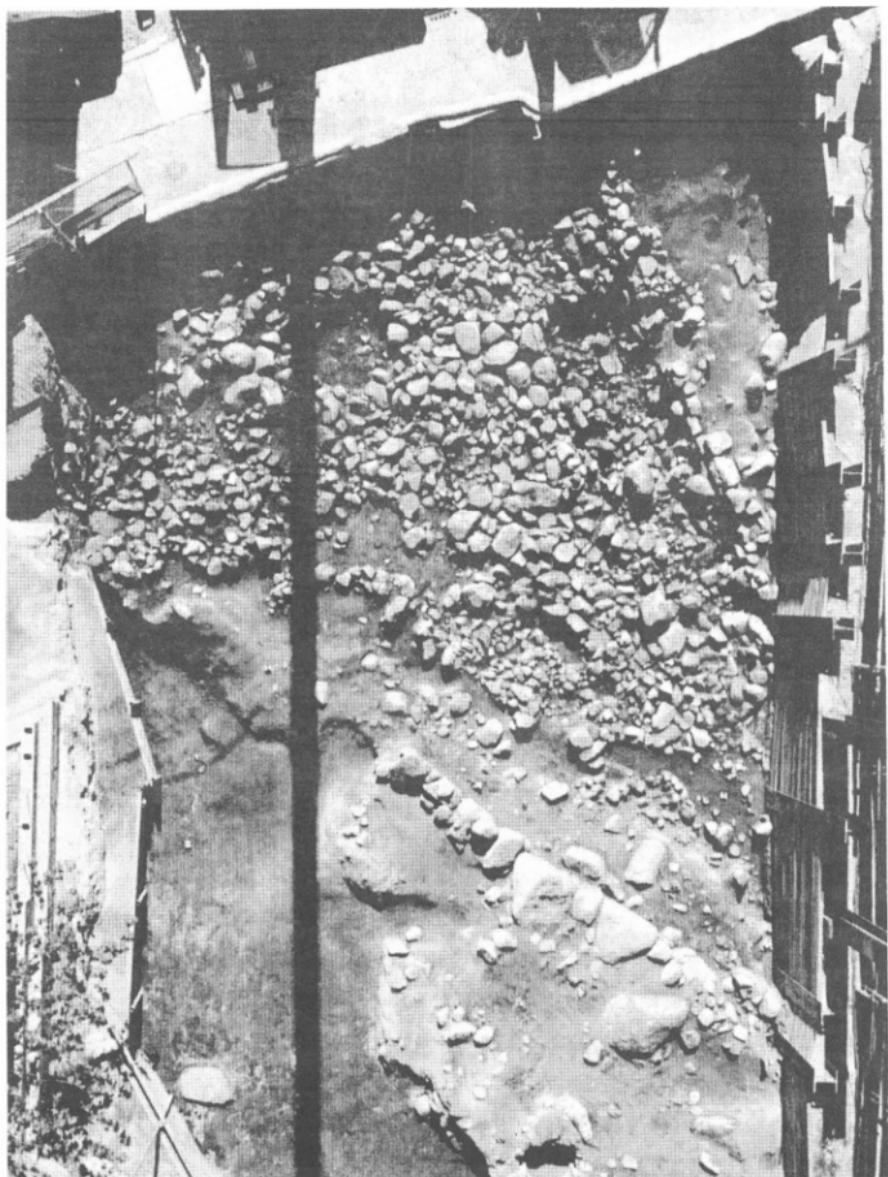
第2次調査地の出土遺物

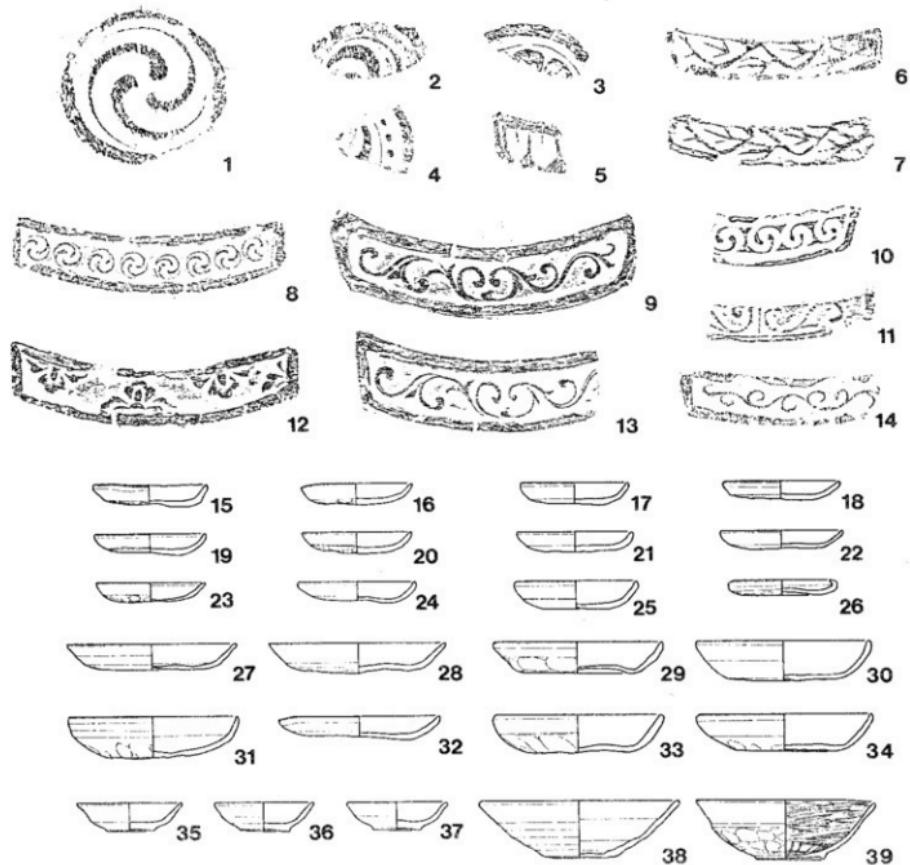
園池からは大量のかわらけが出土していますが、磁器類は数えるほどしかありませんでした。洲浜の盛土からはかなりの数の瓦が出土しています。そのほかの遺構からもかわらけ・瓦が出土しています。瓦の中に京都で焼かれた製品が確認されていることも注目されます。

第3次調査地の出土遺物

第3次調査地点では、調査面積は狭いもののやはり大量のかわらけが出土し、それとともに瓦・滑石製石鍋・中国製の陶磁器などが出土しています。そのなかで陶磁器は高級品が多く、その持ち主が貴族階級であったことを示しています。

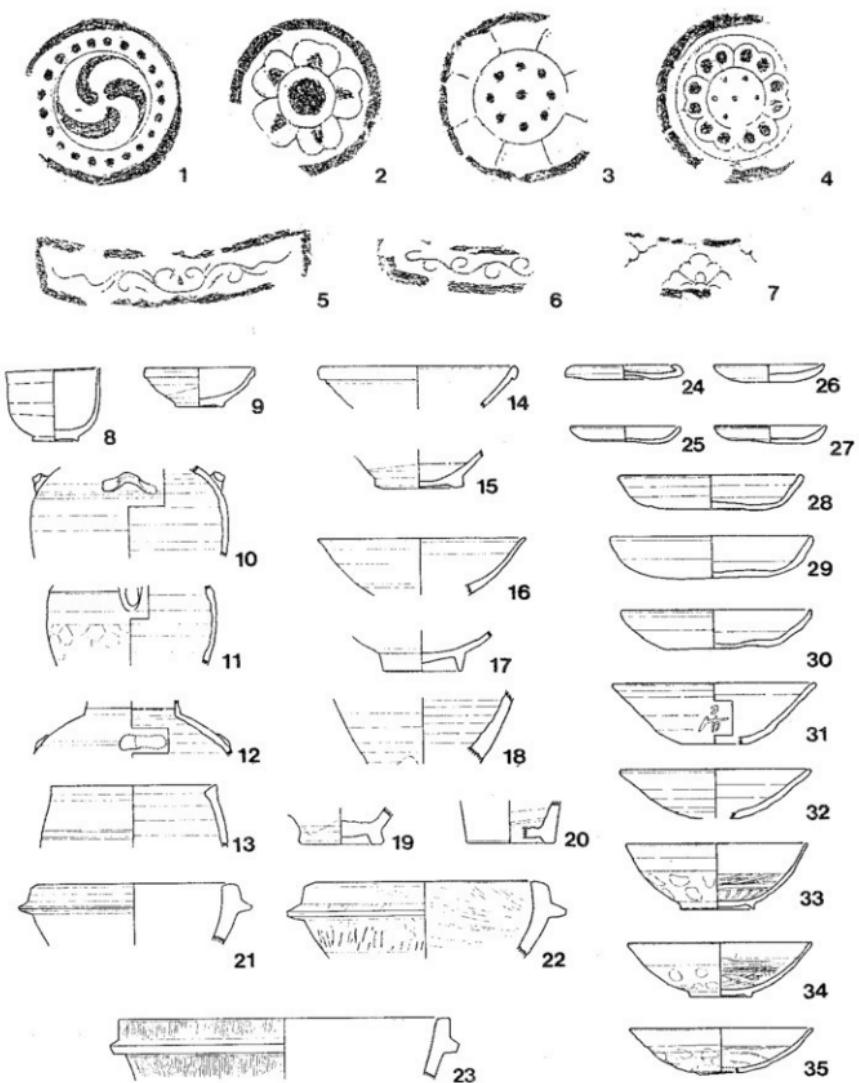
圖地盤鋪平面





第2次調査地出土遺物

1~14: 瓦、15~34: かわらけ、35~38: 須恵器、39: 瓦器
 出土遺構 1・8: SX19、2・4・6・7・11: SX06(洲浜盛土)、3: 24層
 5・9: SX10、10・14: SK14、13: SK15、15~39: SX07(園池)



第3次調査地出土遺物
1~7:瓦、8~20:中國製陶磁器、21~23:石錫
24~30:かわらけ、31・32:須恵器、33~35:瓦器

3.まとめ

今回の調査で出土した遺構・遺物から、12世紀後半、当地に園池を有する広い屋敷地をもつ邸宅の存在したことが確認されました。

園池遺構で出土した大量のかわらけは宴会に用いられたさかづきや皿がまとめて池のなかに投棄されたものと推測されます。この様な状態でのかわらけの出土は、京都・奈良・鎌倉・平泉などの当時の都市部の、貴族階級の屋敷地でしか発見されていないもので、この庭の主が貴族階級であることを示しています。

また、この園池遺構は数次にわたる作りかえが行われています。この屋敷の主は12世紀後半のある程度の期間、ここに屋敷を構えていたと推測されます。おそらくこの遺跡は平家一門あるいはそれにごく近い人物の屋敷地であったと推測することも可能でしょう。

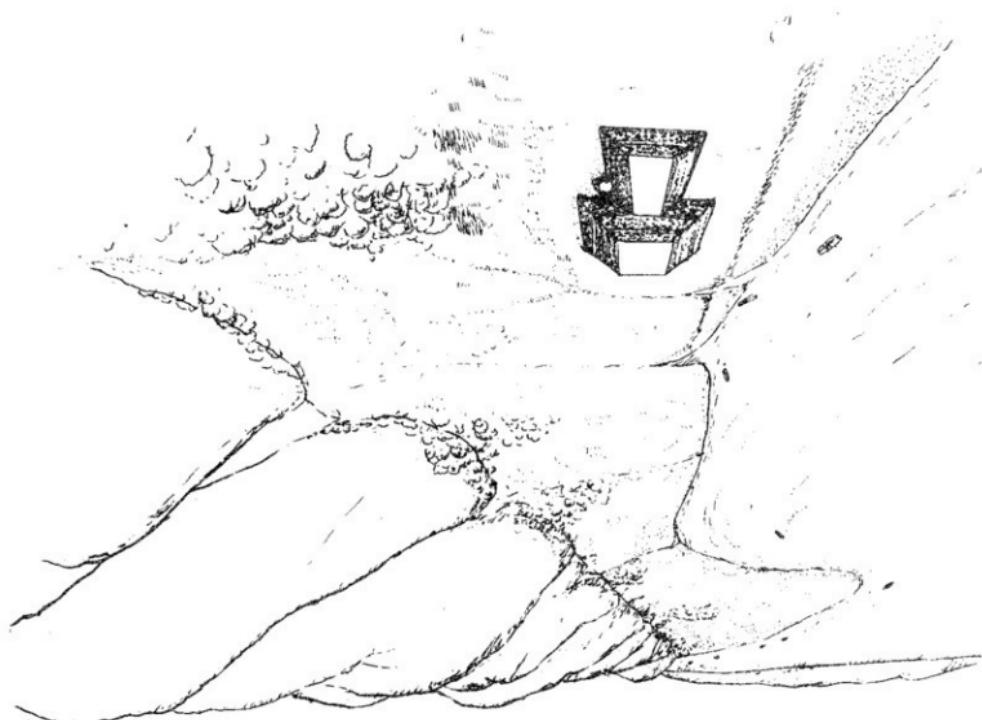
現在までのところ、その人物を特定するような遺物は出土していませんが、今後の調査が大いに期待されるところです。

調査にあたっては、上祇園町自治会・神戸市都市計画局のご協力を得ています。
また、奈良国立文化財研究所 高瀬要一計測修景調査室長・高槻市立埋蔵文化財
調査センター 橋本久和主任のご指導を得ています。

(表紙の拓本は、SK 14出土軒丸瓦・SK 22出土軒平瓦〔縮尺2分の1〕)

平成6年12月1日 横川市議會議員会

西東京市古事記地圖明会員会



今回の調査では下記の機関ならびに方々から協力、指導を得ました。

通産省工業技術院地質調査所近畿・中部地域地質センター 寒川 旭 主任研究官
奈良国立文化財研究所 牛島 茂 文部技官
奈良県立橿原考古学研究所 奥田 尚 嘱託研究員
神戸市文化財専門委員 和田 晴吾 立命館大学教授
神戸市灘区灘南部自治会
文化庁
兵庫県教育委員会
神戸市土地開発公社
神戸市土木局
神戸市住宅局
神戸市灘区役所